

コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム

～令和4年のあゆみ～

附属天王寺中・高等学校 研究部

1. 本校について

本校は、中高一貫校であり、高等学校ではその教育活動を発展的に行う併設型中高一貫校である。

卒業時の生徒像として、グラデュエーションポリシーがあり、それぞれにカリキュラムポリシーがある。中高一貫というのは、教科での取り組みが主軸となり、その役目を果たしている。

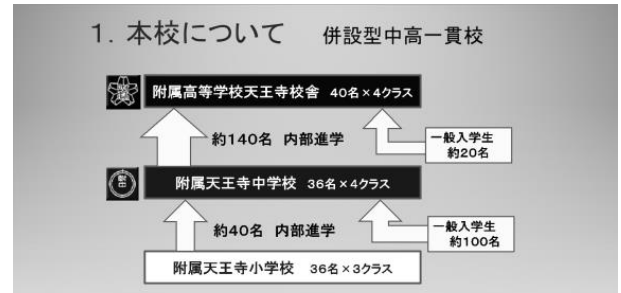


図1 本校について

1-1. グラデュエーションポリシー（GP）



附属天王寺中学校においては、地区の特色である中高の一貫性を活かし、Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematics を統合する教育手法である「STEAM 教育」を実践しながら、

- ①リーダー的素養すなわち、対話的・協働的に企画し実行しやり抜く力の育成
- ②イノベーション主導力の基礎となる力すなわち、学修者の自己効力感を伸ばすために多様な疑問を感じて新たな課題を見出す力の育成などの次世代型教育を行います。



附属高等学校天王寺校舎においては、Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematics を統合した「STEAM 教育」を中高一貫の指導方針のもと行うことを通じて、科学的リテラシーを基礎として社会変革と課題解決に貢献できるとともに、自らの人生を豊かにする力を身に付けた人間を育てる教育を行います。

1-2. カリキュラムポリシー（CP）



附属天王寺中学校では、実体験を重視する学習を通して各教科の基礎・基本を徹底するとともに生徒の学習習慣を確立させ、自ら学び続けるための自己評価を活かしたカリキュラムを開発します。また、教科内探究活動からさらに進んだSTEAM 教育として、自由研究に代表されるような、教科の学力を活用した教科、横断的探究学習を実践しイノベーション主導力を養います。



附属高等学校天王寺校舎では、各教科での基本概念の習得を前提として、実物に触れそれに即して考えることと、議論を通じて意見形成を行うことを基礎とした学習に、STEAM 教育を柱とした探究的活動を組み込んだカリキュラムを開発、実施します。発展的な課題に取り組む中で、主体的、な学びが育つ学習環境を実現しイノベーション主導力を養います。

1-3. 中高の研究

中高6年間で共通して重点を置いていることは、各教科の授業における「実物体験」であり教科横断である「STEAM教育」を「主体的な学び」を育成しながら行うことである。また、中学校は、その6年間の学びのスタートし、日々の生活習慣の基礎・基本を大事に育てている。「質実剛健」の校風の下、基礎学力を高め、個性を伸ばし、協調性を養う。学び合いの精神の中を大事にしながら、無限の可能性を探る。好奇心を掻き立てる授業実践を基礎に、教科行事（理科：野外実習磯観察、保健体育：マラソン大会、英語：暗唱大会・弁論大会）も行なっている。

行事は、自主性を育てる機会として、合宿訓練、体育大会、修学旅行、富士登山、音楽会、学芸会等の行事を通して、仲間との協力の重要性を学び、リーダーの育成、伝統を受け継いでいく姿勢を身につけている。学校全体を導くリーダーの育成として生徒会活動があり、生徒自身で定めた「規律規定」を遵守し、各委員会が工夫を凝らして自主的に活動している。

高等学校では、中学校で育まれた基礎・基本から「自主・自立・自由と責任」を、議論を通して身につけることを教育目標としている。生徒の自主性と主体性を尊重しながら行事の立案が自治会を中心に実施され、附高祭、音楽祭、長距離徒歩といった行事を教員が支えつつ、実施している。高等学校では、個人の学びの機会を多く与えている。特に、「科学のもり」で実施されている環境論、生命論といった特設授業、またつくば（KEK）研修、西はりま研修といった行事なども特徴の一つである。2年次までは必修の授業を受講し、3年生で選択授業が始まる。文理には分かれておらず広く深く学ぶことを大事に教育課程が組まれていることも特徴の一つである。

1-4. 研究部の主な働き

1. 研究学校として、教科での研究を実践し、教育研究会で発表する
2. 実証学校として、研究の結果を研究集録としてまとめ発行する
3. 実習学校として、大学生、大学院生を教育実習の場を提供する

今年度の発表（図3）に関しては、中高一貫の縦軸を教育研究会（11月12日実施）で発表し、教科を超えた学びとして教科横断の発表（3月27日実施）を有志教員で発表を行い次年度の教育研究会で教科横断をどのような形で発表するかを検討することとした。

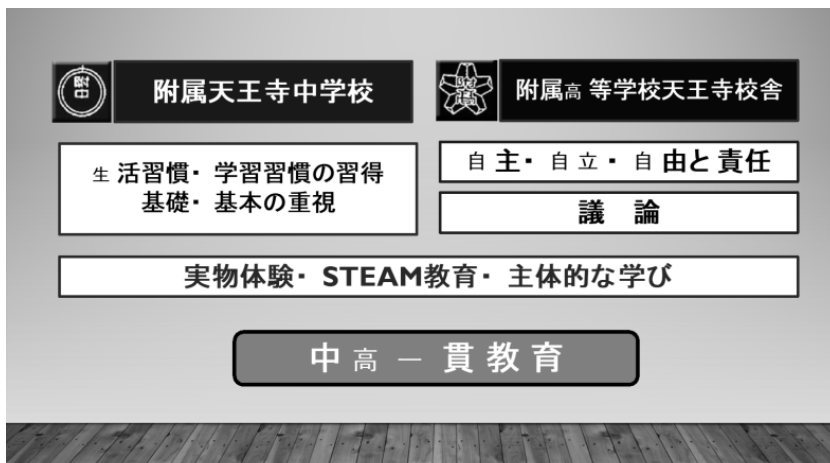


図2 中高一貫教育

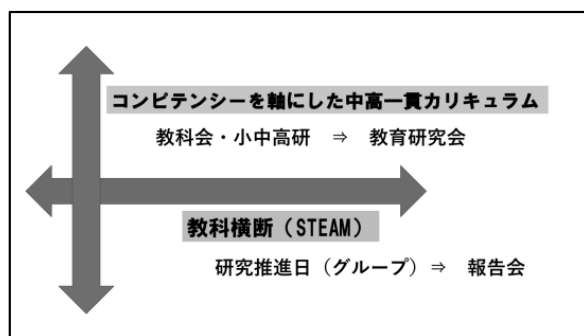


図3 今年度の発表について

年間を通して中高で推進日（表 1）を設け、教員の学びの機会を確保している。また、年間 8 回（各 2 時間）を行事予定で確保し、小学校・中学校・高等学校の 3 校種の学びを学期に 1 度設け、天王寺地区としての研究も行なっている。

表 1. 研究推進日スケジュール

推進日	日付	曜日	内容
推進日①	4/13	（水）	教科研究テーマの確認・教科における中高一貫教育について
推進日②	6/22	（水）	小中高Ⅰ「小中高連携について・STEAM について」
推進日③	7/20	（水）	研修
推進日④	9/21	（水）	教育研究会中間発表
推進日⑤	10/13	（木）	小中高Ⅱ「小中高連携について・STEAM について」
連絡集会	11/10	（木）	教育研究会の最終打ち合わせ
推進日⑥	11/12	（土）	教育研究会
推進日⑦	1/25	（水）	小中高Ⅲ
推進日⑧	3/24	（金）	研修

【本年度の達成目標】

1) 教科

新学習指導要領を踏まえ、以下の 3 項目を（小）中高での関連性が明示されたコンピテンシーベースのカリキュラムを作成

- a 「知識・技能」
- b 「思考力・判断力・表現力等」
- c 「学びに向かう力・人間性等」

2) 教科横断（STEAM）

グループごとに教材を作成し、実践をもとに改善。

3) 教育研究会（今年度：数学・英語・社会・理科・保健体育・道徳）

1) に基づいた実践報告を行い、中・高での発達段階による取り扱いの差異を明確に提示

4) 集録

上記の目標を中心とした研究成果を集録にまとめる

【研究テーマ】第 6 9 回教育研究会 『コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム』

教科会：コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム

小中高：コンピテンシーを軸にした小中高一貫カリキュラム

- 第 6 8 回附属天王寺型一貫教育 ～何から始める？連携の視点を探る～
- 第 6 7 回附属天王寺型一貫教育のための ICT 機器を活用した学校運営・教育活動の模索
- 第 6 6 回学びの自立をめざす評価の工夫と改善～深い学びの実現とその評価～
- 第 6 5 回学びの自立をめざす行かの工夫と改善～深い学びをめざす教科教育とその評価～
- 第 6 4 回学びの自立をめざす評価の工夫と改善～アクティブラーニングとその評価～
- 第 6 3 回学びの自立を目指す評価の工夫と改善 ～アクティブラーニングってなに？～

推進日①

研修会 4月13日（水）

小講堂にて

推進日①は本年度初回の開催であることから、本年度の達成目標、研究テーマについての発表に合わせて、中高教員間の親睦を図ることと、ICT の実践研修の両方を目的として、Jamboard を用いたグループディスカッションを行った。

ディスカッションのテーマは「得意・定番・昨年度のベスト授業」「不得意・課題・昨年度失敗した授業」「本校生徒の課題」とした。Jamboard を使用したことのある教員は多くはなかったが、ホワイトボードに付箋を貼って整理する作業が、各自のデバイス上で可能であって、保存もしやすいことから、授業への導入の手がかりを得ることができたのではないだろうか。

実施後の感想では、中高教員のコミュニケーションの場として良かった、他教科他校種の授業の実態を聞くことで、自教科の見直しが図れたなど、交流の機会として推進日が役立っていることを示唆するコメントや、Jamboard が楽しかった、ICT スキルの向上につながったなど、研修としても同時に機能していたことを示唆するコメントが散見された。

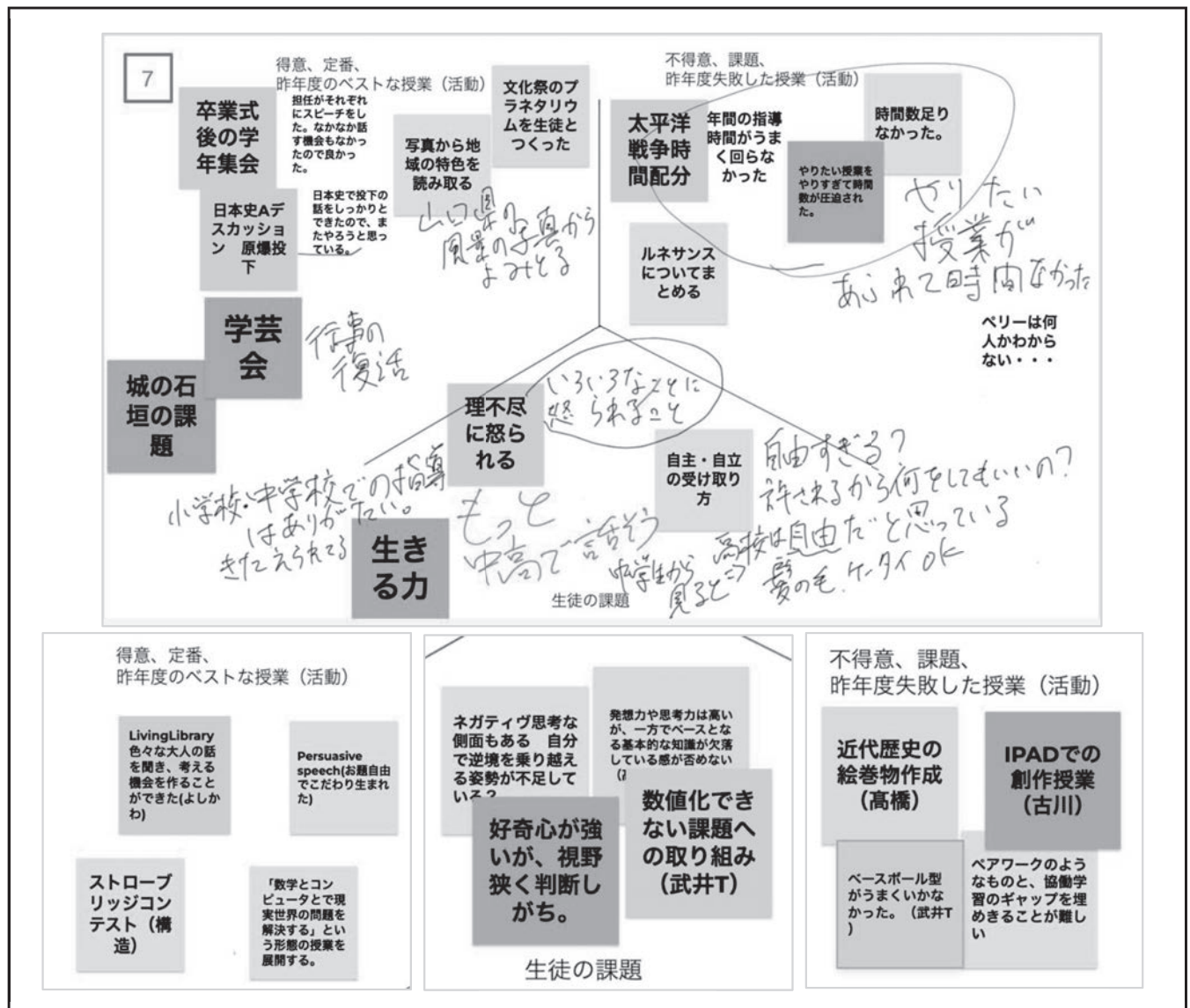


図 4 - 1 推進日①で使用の Jamboard

推進日②

第 1 回 小中高研究部会（高校主担）

日 時：6月22日（水）16：30～17：30

内 容：小中高連携について

目 的：校種間の自己紹介と情報交換、研究テーマを通して連携を強める

【本年度の達成目標】＊令和3年度からの継続目標

1) 教科

新学習指導要領を踏まえ、以下の3項目を（小）中高での関連性が明示されたコンピテンシーベースのカリキュラムを作成

a「知識・技能」

b「思考力・判断力・表現力等」

c「学びに向かう力・人間性等」

2) 教科横断

グループごとに教材を作成し、実践をもとに改善

3) 教育研究会。

1) に基づいた実践報告を行い、中・高での発達段階による取り扱いの差異を明確に提示

4) 集録

上記の目標を中心とした研究成果を集録にまとめる

【今年度研究テーマ中高】第69回コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム

教科会：コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム

小中高：コンピテンシーを軸にした小中高一貫カリキュラム

教科	参加予定者			場所
	小	中	高	
英語（外国語）	内田、雲材	青木、田中、寺井	立花、横山、山井、加藤、乾	小会議室
国語	大久保、星野、金子、本田	福西、富近、伊藤	岩崎、西村、店田、宮川	特別室
数学・算数・情報	松村、堀田、山口	島橋、今澤、藤原	大石、深澤、武部、松田、山本	会議室
社会・地歴公民	清水、降井、加藤、村口	桑名、高橋、西俣	正垣、斎藤、笹川、大満	視聴覚室
理科	國光、橋長	篠原、藤井、堀井	井村、山口、森中、木内、南	生物講義室
保健体育	橋本、麓	武井、宇高	吉川、白石、前田、	体育研究室
芸術・美術・技術家庭科	上野、大原、井上	宣、安福、木待	古川	音楽室
養護	湊川	升谷	甲斐	保健室

推進日③

特別支援研修（健康人権教育部と共催）

日時：7月20日（水）14：30～16：30

テーマ：「高機能自閉症の理解と対応」

目的：発達障害がある生徒に対して、教員がどう関わっていくべきかについて学ぶ。今回は発達障害の中でも、特に「高機能自閉症」と「自閉スペクトラム症」について理解を深める。

形式：①担任が、特別支援コーディネーターに支援を要する生徒の情報と支援の取り組みについて報告する。

②担任からの報告をもとに、森田先生と特別支援コーディネーターで講演内容について検討する。

③森田先生の講演を聞く。

④テーマに沿ったワークショップを行う。

⑤研修後の教員の感想を集めるためにアンケートをとる。

グループ	中学校	高校
①	堀井、島橋、安福	岩崎、木内
②	高橋、田中	山口、齋藤、武部
③	福西、桑名、青木	笹川、店田、加藤
④	廣瀬、宇高	西村、南、前田
⑤	伊藤、富近	乾、山本、宮川
⑥	宣、升谷、	大満、山井、深澤
⑦	西俣、寺井	糠野、横山、古川
⑧	藤井、今澤、藤原	甲斐、松田、森中
⑨	篠原、木待	正垣、井村、白石

【研修後の感想】

- ・知らなかった情報はなかった。附高生をあてはめてイメージしにくくもあった。過去の勤務校の生徒が複数頭をよぎった。
- ・高機能自閉症あるいは自閉症スペクトラム症について、なんとなくのイメージは持っていたが、知識として改めて学ぶことができた。また、特性を持つ子どもに合った対応方法についても学ぶことができた。
- ・具体的に話すという実例を交えての講演で非常にわかりやすかった。
- ・説明内容は大変わかりやすかった。
- ・高機能自閉症について、知っている知識はたくさんあったがそれらが整理されていない状況であったので、この研修で整理することができた。
- ・具体的な事例があり、とても理解しやすかった。本校にもそのような傾向のある生徒はおり、大変勉強になった。
- ・実践的な内容であり、2学期から活かせる素晴らしい講演であった。
- ・本校の生徒のことを頭に思い浮かべながら講演を聞かせていただき、今後の指導の参考になる内容であった。
- ・もう少し専門的で詳しい話が聞きたかった。
- ・高機能自閉症の高機能の意味など完全に忘れていた知識もあったのでいい勉強になった。教員同士で対応のアイデアを話し合う活動が良かった。
- ・具体的事象を例にして話が進められたので、とてもわかりやすかった。
- ・附属中も支援の必要な生徒がいるので、講演会は考える機会をいただきよかった。

推進日④

教育研究会中間発表

- ◆ 発表教科の発表：各教科 10 分の発表＋質疑応答 5 分
道徳→保健体育→理科→社会→英語→数学
- ◆ 研究会実施についての方針
 - ①対面実施とする
 - ②コロナ感染対策を十分に行う ➡ 大学棟西館教室を使用する
 - ③発表者の授業のやりやすい場所を発表者が選択できるようにする。

場所：特別室
時間：16：00～

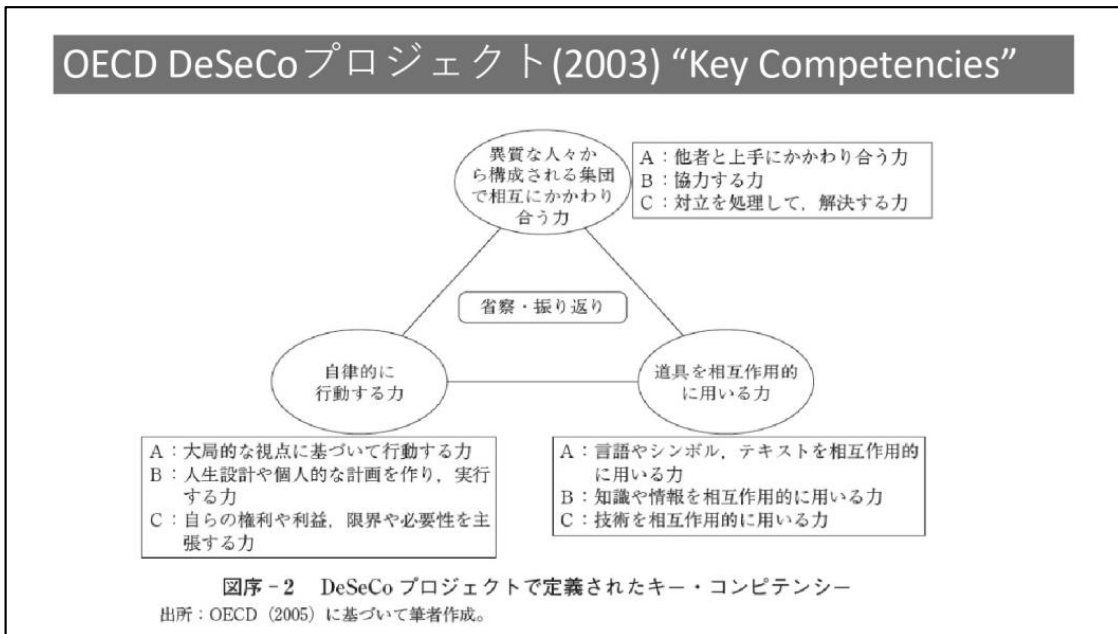


図 5 OECD におけるキーコンピテンシー

キー・コンピテンシーの考え方

OECD DeSeCoプロジェクト(2003) “Key Competencies”
 “the ability to successfully meet complex demands in a particular context through the mobilization of knowledge, (cognitive, metacognitive, socio-emotional and practical) skills, attitudes and values”

(「知識、(認知的、メタ認知的、社会情動的、実用的)スキル、態度及び価値観を結集することを通して、特定の文脈における複雑な要求を十分に満たしていく能力」)

- 1、統合的(holistic)な視点からのアプローチ 様々な知識やスキル、態度・価値観などを必要な場面で抽出して、結集して(組み合わせる)発揮していくこと
- 2、文脈に即したアプローチ 場面や文脈に即して考えていくこと

図 6 キーコンピテンシーの考え方

- ◆ 資料入れとして参加者に渡すトートバックのイラストを中高生に募集し、選考を行う。

中学校カラー 紺色
高等学校カラー えんじ

〈選考の結果〉

中学2年生の作品が選ばれた



図8 選考された作品

あなたのデザインが学校グッズに！
紺色とえんじ色のトートバッグが
イベントで配付・学校で販売されます

締切：9/2(金)17時
原寸大のファイルをメールで送信
宛先：kenkyu@tenko-g.oku.ed.jp
件名：トートバッグデザイン
本文にクラス・名前

デザインの条件

- ・ヨコ240mm×タテ200mm
- ・紺色とえんじ色で共通のもの
- ・カラーは3色まで使用可
- ・誰もがバッグを使えるように
- ・.ai, .jpg, .eps, .pdfのいずれかの形式で、解像度200dpi以上

応募作品多数の場合は、審査のうえ採用デザインを決定します。
この件に関する問い合わせは、高校研究部の花まで

図7 イラストデザイン募集

デザイン募集（図7）を各クラスで実施。

生徒の作品をトートバックに印字することにした。そのイラスト（図8）を教育研究会当日に使用する掲示物、お知らせ分、また授業者のスライドや使用プリントにも使用するよう研究部より依頼した。

中間発表を通して、コンピテンシーについての各教科での受け止め方、イメージを互いに交換し、考える時間を取ることができた。また、教科で行うコンテンツについて、他教科からの質問や指摘があり、授業者が再構築するきっかけ作りができていた。教育研究会は、教科の中の1名の発表であるが、教育研究会発表までに行う中高での教科会がベースにある。また、中学、高校それぞれの生徒の成長過程、と附属生徒独特の疑問の持ち方や問題点に取り組むことの必要性が明確になった。

推進日⑤

第 2 回 小中高研究部会（中学主担）

日 時：10月13日（木）16：30～17：30

テーマ：小中高連携について②

目 的：・校種間の情報交換、研究テーマを通して連携を強める
・中学校より、自由研究の取り組みに発信し、校種間の理解を深める

形 式：①事前に teams を用いて中学校の自由研究の取り組みについて発信。

②当日の形式は教科裁量で行う。（例：授業公開の上、グループ協議など）

③当日の協議の中で、小・高から中の自由研究について意見をもらったり、小や高の取り組みについて紹介していただいたり、中の教員からゼミ指導の実際について話したりするなど、話題のひとつとする。協議についての記録は、原則中学校教員で行う。

*中学校の教科主任の先生方は、小・高の先生方に日付・時間・場所の連絡をお願いします。場所は各グループで都合の良いところをおさえ、福西まで連絡をお願いします。

教科	参加予定者			場所
	小	中	高	
英語（外国語）	内田、雲材	田中、青木、寺井	立花、横山、山井、 加藤、乾	小会議室
国語	大久保、星野、金子、 本田	福西、富近、伊藤	岩崎、西村、店田、 宮川	特別室
数学・算数・情報	松村、堀田、山口	島橋、今澤、藤原	大石、深澤、武部、 松田、山本	会議室
社会・地歴公民	清水、降井、加藤、 村口	高橋、桑名、西俣	正垣、斎藤、笹川、 大満	視聴覚室
理科	國光、橋長	篠原、藤井、堀井	井村、山口、森中、 木内、南	物理実験室
保健体育	橋本、麓	武井、宇高	吉川、白石、前田、	体育研究室
音楽・美術・技術家庭科	上野、大原、井上	宣、安福、木待	古川、	美術室
養護	湊川	升谷	甲斐	保健室

【各教科グループの報告より】

中学校の自由研究の取り組みに関する情報共有では、各校より、生徒の実態に応じた探究的な活動の現状と課題について議論が行われた。たとえば、小学校では自由研究そのものを行うことはカリキュラム上、設けていないが、各教科の学習過程や、防災を主軸とした宿泊学習などの中で、探究的な活動が設定されていることや、中学校では一人で研究を進めるのに対し、高等学校ではグループでの課題研究が行われていることなど、小中高の縦軸を意識した探究的な活動を考える機会となった。

また、教科グループでの議論であったことから、各教科特性からみた探究的な活動についても議論がなされた。たとえば、国語科では発表のスキルの高さが目立つが、一方で質問・批判のスキルがそれに伴っていない課題があることや、保健体育科では高校の課題研究においては、体育・スポーツに関する研究がなされていないことなどが明らかとなった。

最後になるが、各校の探究的な活動については、まだまだ情報共有の余地はあり、実地研修なども含め、活発に交流することが今後も必要であると考えます。

教育研究会 11月12日（土）

研究主題

『コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム』

- | | |
|------|---|
| 数 学 | テーマ：生きてはたらく数学的資質・能力の育成
指導助言者：大阪大谷大学 准教授 竹歳 賢一先生 |
| 英 語 | テーマ：CLIL のアプローチを取り入れた授業実践
指導助言者：上智大学 教授 池田 真先生 |
| 社 会 | テーマ：公民的資質・能力の育成
指導助言者：兵庫教育大学 副学長 吉水 裕也先生 |
| 理 科 | テーマ：6年間で育成するコンピテンシーの体系化と実践
指導助言者：大阪教育大学 教授 仲矢 史雄先生 |
| 保健体育 | テーマ：対話による体育的資質能力の育成
指導助言者：大阪教育大学 教授 赤松 喜久先生 |
| 道 徳 | テーマ：教師と生徒が<よりよく生きる喜び>について共に考える道徳授業
指導助言者：四天王寺大学 教授 杉中 康平先生 |

大阪教育大学
附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎

第69回教育研究会

コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム

後援：大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・堺市教育委員会

2022年11月12日(土)	9:00- 9:30 受付
9:00-16:30	9:30-10:00 全体会
本校にて対面実施	10:00-10:50 授業Ⅰ
参加無料	11:10-12:00 授業Ⅱ
	12:00-13:00 休憩
	13:00-14:45 発表協議
	15:00-16:30 講演

発表教科・テーマ

数 学 生きてはたらく数学的資質・能力の育成
英 語 CLILのアプローチを取り入れた授業実践
社 会 公民的資質・能力の育成
理 科 6年間で育成するコンピテンシーの体系化と実践
保健体育 対話による体育的資質能力の育成
道 徳 教師と生徒が<よりよく生きる喜び>について共に考える道徳授業

公開授業の詳細については、裏面をご覧ください。

講演 『Society5.0社会における学びの転換』



若江 真紀 氏
株式会社キャリアリンク代表取締役(教育サービス・コンサルティング)
株式会社アクゼット代表取締役(マーケティングコンサルティング)
キャリア開発アクション推進コンソーシアム 事務局長
国立大学法人兵庫教育大学 理事 (非常勤)

参加申込み



右のQRコードを讀む、もしくは学校ホームページにアクセスしていただき、お申込みフォームにご入力ください。
申込み締め切り：10月26日（水）



新型コロナウイルス感染対策として、入校時の検温ならびに体調確認、校内でのマスク着用、距離の確保と人数制限にご協力いただきますようお願いいたします。また、昼食、お飲み物は各自でご用意ください。

アクセス



JR天王寺 近鉄 大阪阿部野橋

〒543-0054 大阪府天王寺区南河堀町4-88
TEL: 06-6775-6052・6053 FAX: 06-6775-9750
E-mail: kenkyu@tenko-g.oku.ed.jp
https://f.osaka-kyoiku.ac.jp/tennojij-kenkyu/kenkyukai/

〈各教科 授業者と内容〉

- 数学** **総合的な統計的問題解決能力育成を目指す授業モデルの開発** **授業者：今澤 宏太（中1/数学）**
本実践は、「D: データの活用領域」において、学習指導要領に掲げられてる統計的探究プロセス（PPDAC サイクル）のうち、教科書において重点的に取り扱われている「Analysis」・「Conclusion」の相だけでなく、その前段に当たる「Problem」・「Plan」・「Data」の相にも注目し、コンピテンシーベースの教材のもとで、総合的な統計的問題解決能力を育成することを目指す。
司会：
本校教諭
大石 明徳
- 3次方程式を用いて三角比の表をつくる** **授業者：武部 真子（高II/数学II）**
数学の教科書には、当たり前のように記載されているがその経緯が述べられていないことが多々ある。また、それに対して疑問を持つ生徒も少なからずいる。今回の授業では、生徒が1年時から抱いていた疑問を、3次方程式を用いて解決できないかを試みる。課題に対して様々な道具を活用しながら粘り強く考察し、生徒が主体的に数学的活動を行うことを目標とする。
- 英語** **CLIL 型学習による、主体的対話的で深い学びを生む授業実践** **授業者：青木 宏明（中3/英語）**
教科書の発展学習として、CLIL を取り入れた授業展開のもと、オーセンティックな教材として映画を用いた授業実践を行う。映像から1850年代のアフリカ系アメリカ人の生活や差別と闘う人々の心情を読み取ることで、生徒の興味を喚起しつつ、他者・異文化への理解を深める。最終段階として、現在も存在する様々な差別に対して、自分事として何ができるのかを深く思考し、「私の I Have a Dream」スピーチへとつなげる。
司会：
本校教諭
田中真理子
- CLIL を通して社会的問題について考えることを促す授業実践** **授業者：山井 惇平（高I/論理・表現I）**
アメリカの人種差別について中学校で学んだことを深めるために、協同学習とCLILを基調とした授業を通して、他国で起きている同様の問題を題材にした授業を展開する。南アフリカのアパルトヘイトについて学んだ後、生徒にとって身近な教育の観点から南アフリカで起きている社会的格差について考えさせる。一連の授業の総括として、差別とは何かを自身の言葉で説明する活動を行う。
- 社会** **政治的リテラシーの獲得を目指したパフォーマンス課題の開発と実践** **授業者：桑名 恵美（中3/社会）**
社会構造が急速に変化する現代社会において、正確な情報を自ら得て理解し、それを他者に論理的に伝え共有することは重要である。そこで公共放送番組をつくるパフォーマンス課題を設定する。仲間と社会的事象を多面的・多角的に見つめ、それを他者に正しく・公共の精神で伝えることを疑似体験することで、より良い社会の実現のために社会に参画する態度と能力を育成することを目指す。
司会：
本校教諭
正垣 裕介
- コンピテンシー分析に基づく減災型社会構築のための防災教育** **授業者：大満 秀一郎（高I/地理総合）**
地理総合における防災・減災教育について、コンピテンシー設計を意識した授業実践を行う。防災教育を学んだ生徒は、1SURVIVOR となるため、2SUPPORTER となるため、3市民力を育むための地理的アプローチを考え、災害リスクに対して、プロセスや対策のみならず、社会的なリスクも発見・分析し、地域を考察できることを目指していく。

童謡・唱歌を気象的観点から分析・表現する授業の実践

理科

授業者：堀井 久嗣（中2/理科）

科学的な事物・現象について学習する過程において、身近なもの・ことを分析して自らの言語で表現するという事は、理解を深めるうえで重要な事である。そこで、童謡・唱歌を題材として歌詞の分析を行い、それをグループで考えながら分析を発表するという授業を行う。この授業を通して、身近な題材を活用することで、日頃から自然について考える事の重要性も促していきたい。

司会：
本校教諭
藤井 宏明

中学校での学びを踏まえてより詳細に「力のつり合い」を分析・表現させる

授業の実践 授業者：山口 耕司（高I/物理基礎）

附属天王寺中学校では「力の矢印の言語化」に重点を置くなど工夫された指導法が実践されている。この中学校での学び方との接続を意識した授業展開を試みる。具体的には、2つの磁石を近づけて机の上に置いた際の力のつり合いやつり合いが破れた際の運動の仕方について観察事実を丁寧に言語化させ、グループで共有・考察させる。発表活動を通じ、「課題解決」のための資質・能力を育成する。

中高連携に基づく保健体育の授業 ～ 球技 / ゴール型 ～

保健体育

授業者：武井 浩平（中3/保健体育）

中高連携で取り組んでいる、個人やチームの課題解決の取り組みを、バスケットボールの授業で行う。今回はゴールから少し離れた範囲であるペリメーターの攻防を工夫することで、話し合いを活性化し、技術から技能への成長を試みる。

司会：
本校教諭
前田 翼

課題解決学習を中心とした男女共習の授業実践

授業者：吉川 智貴・白石 大悟（高II/体育）

共生社会の実現に向けて、科目体育では男女共習での授業が求められている。そこで今回は、男女共習でのゴール型球技「アルティメット」の授業実践の報告とネット型種目の授業実践を行う。本実践では、課題解決型学習を授業の中心とし、チームでの話し合いや活動を行うことを通じて、課題発見力や働きかけ力、計画力などの社会人基礎力を育成することを目指す。

教師と生徒が〈よりよく生きる喜び〉について共に考える 道徳授業

道徳

授業者：篠原 孝雄（中3/道徳）

修学旅行とのカリキュラム・マネジメントを図り、内容項目D-（22）「よりよく生きる喜び」において、誰に対しても人間としてのよさを見いだしていこうとする態度を育てるべく、道徳科の授業を設計した。授業で扱う教材「二人の弟子」は長編のため、中学生が理解し、深めていくには難しい内容であるが、登場人物の心境やその動機を探っていくことで、本授業のねらいに迫りたい。

司会：
本校教諭
安福 華世



2022/11/12
大阪教育大学附属天王寺中学校
高等学校天王寺校舎

第 69 回 教育研究会
「コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム」

1.本日のプログラム

全体会	1限目	休憩	2限目	昼休み	協議	休憩	講演会
9:30～9:50	10:00～10:50	20分	11:10～12:00	12:00～ 13:00	13:00～ 14:45	15分	15:00～ 16:30
社会 西館ホール	中社会(3B) 西館ホール	20分	高社会(IA) 講義室A	60分	社会 講義室F		体育館
英語 講義室F	中英語(3A) 講義室F		高英語(IB) 講義室F		英語 西館ホール		
理科 講義室D	中理科(2B) 講義室D		高理科(IC) 講義室D		理科 講義室D		
保健体育 講義室A	高校保体(II B) 体育館		中保体(3CD 女) 体育館		保健体育 講義室A		
数学 講義室C	中学数学(1D) 中数学(1D) 講義室C		高数学(II D) 西館ホール		数学 講義室E		
道徳 小講堂 (南館3F)	中学道徳(3D) 小講堂	10分	道徳協議 11:00～12:10 小講堂		講演会に参加される方 は、体育館でお待ちいた だけます。		

- * 昼食は西館講義室 E でおとりいただけます。一旦、外出いただいても差し支えございません。
- * 配布いたしましたスリッパは、中高棟(南館)と体育館でお使いください。大学棟(西館ホール・講義室)へは下足でお入りください。使用したスリッパは、各自お持ち帰りいただき、使用しなかったスリッパは、お帰りの際に入校証・名札とともにご返却ください。

2.見学に際しての注意事項

- マスク着用の上、距離の確保にご配慮ください。とくに生徒との距離の確保にご配慮ください。
- 授業風景の撮影は、個人の記録や勤務校での報告用とし、生徒個人が特定されることのないようにしてください。また、SNS 等へのアップロードはご遠慮ください。
- 講演会の録音・録画等はご遠慮ください。

3.資料および、アンケート

- ①事前に配信している資料・映像等です。パスは futen2022 です。
- ②本日の資料は教室前にございます。QR コードより、データを配布しておりますので、是非とも勤務校等でご紹介ください。1ヶ月を期限として公開いたします。
- ③ご参会の最後に、本研究会に関するアンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。



①事前資料

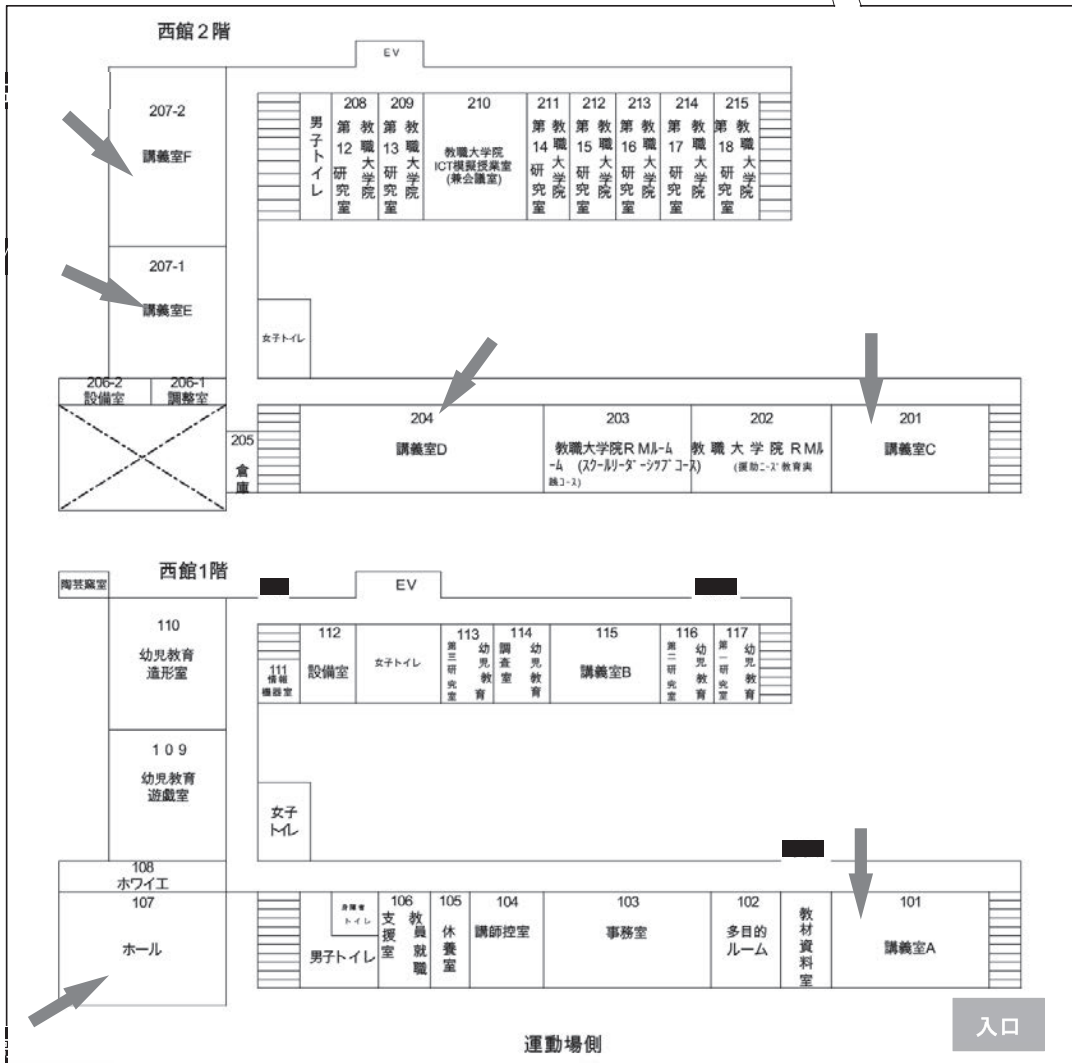
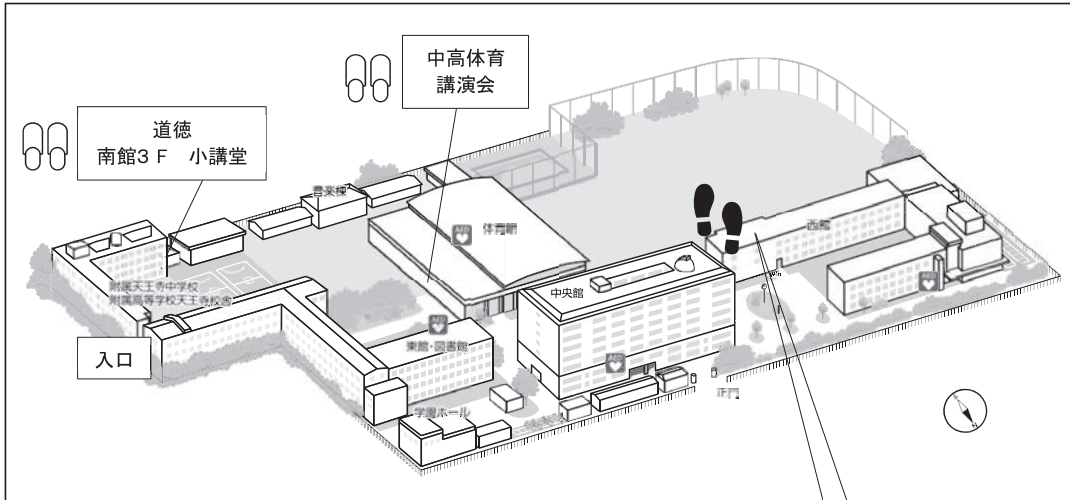


②当日資料



③アンケート

4.会場図（スリッパと下足のエリアがあります）



西館周辺は現在工事中のため、ご不便をおかけいたしますこと、ご容赦願います。

全体会スライド：

1. 研究主題（教育研究会のテーマ）

令和元年度	第66回	学びの自立を目指す評価の工夫と改善 ～深い学びの実現とその評価～
令和2年度	第67回	附属天王寺型－貫教育のためのICT機器を活用した学校運営・教育活動の摸索
令和3年度	第68回	附属天王寺型－貫教育 －何から始める？連携の視点を探る－
令和4年度	第69回	コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム

the ability to successfully meet complex demands in a particular context through the mobilization of knowledge, skills, attitudes, and value

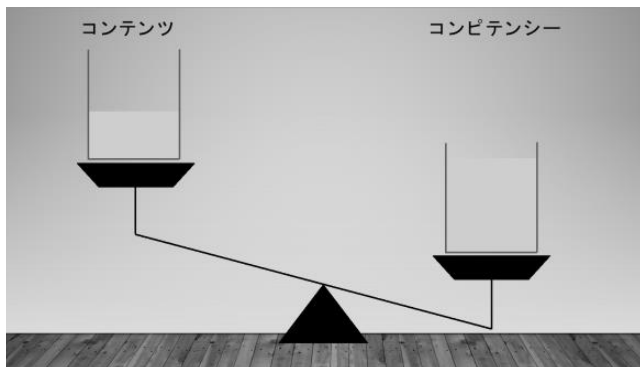
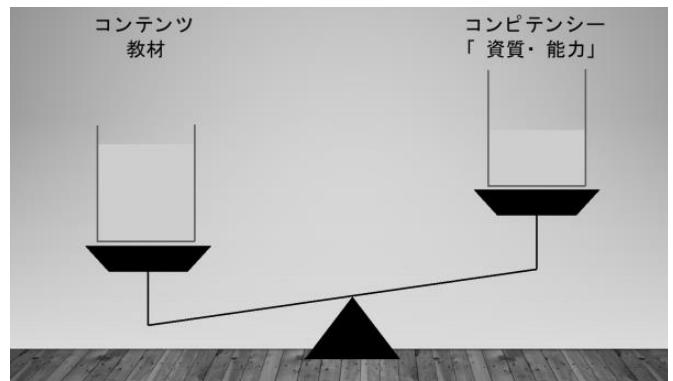
コンピテンシーって何???

複雑な要求にうまく対応する能力
特定の状況における
知識、スキル、態度、価値観を通して

本年度の取り組み
『コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム』

天王寺地区（小中高）において、教科としての縦のつながりを強化しながら、探究型学習を主軸とした横のつながり（教科横断）の基礎を築く。次年度の授業実践に向けて、他教科との「見方・考え方」について情報交換を行う。

－貫教育、教科横断、校種連携、探究型学習、指導計画



- 【本年度の達成目標】
1. 教科 新学習指導要領を踏まえ、以下の3項目を（小）中高での関連性が明示されたコンピテンシーベースのカリキュラムを作成
a「知識・技能」
b「思考力・判断力・表現力等」
c「学びに向かう力・人間性等」
 2. 教科横断（STEAM）グループごとに教材を作成、実践をもとに改善
 3. 教育研究会 「コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム」
1. に基づいた実践報告を行い、中・高での発達段階による取り扱いの差異を明確に提示
 4. 集録 上記の目標を中心とした研究成果を集録にまとめる

2. 校内研修年間スケジュール

推進日	日付	曜日	内容
推進日①	4/13	（水）	教科研究テーマの確認・教科における中高一貫教育について
推進日②	6/22	（水）	小中高Ⅰ「小中高連携について・STEAMについて」
推進日③	7/20	（水）	研修
推進日④	9/21	（水）	教育研究会中間発表
推進日⑤	10/13	（木）	小中高Ⅱ「小中高連携について・STEAMについて」
連絡集会	11/10	（木）	教育研究会の最終打ち合わせ
推進日⑥	11/12	（土）	教育研究会 本日！！
推進日⑦	1/25	（水）	小中高Ⅲ
推進日⑧	3/24	（金）	研修

令和5年度教育研究会予告

11月11日（土）予定
授業実施科目：数学、国語、社会、理科、美術（予定）

➡ 来年度教育研究会には決定事項を随時、HPでお知らせ

第69回教育研究会 全体指導講師について

令和4年5月19日 評議員会
令和4年5月23日 運営委員会
令和4年5月24日 職員会議

テーマ：コンピテンシーを軸にした中高一貫カリキュラム

〈講師紹介〉



代表取締役 若江 真紀
◆株式会社キャリアリンク
（教育サービス・コンサルティング）
◆株式会社アクセプト代表取締役
（マーケティングコンサルティング）
◆キャリア協育アクション推進コンソーシアム 事務局長
◆国立大学法人兵庫教育大学 理事（非常勤）

1987年に株式会社アクセプト設立。生活者からの視点に基づいた新たな市場戦略により、企業のマネジメント戦略、マーケティング戦略の策定・実施を総合的にサポートするコンサルティング事業を展開。子育てを通して日本とアメリカの教育に同時に触れた経験から、日本の教育に課題を感じ、1991年に保育・教育分野に特化した株式会社キャリアリンクを設立。企業の教育CSRや官公庁・自治体の教育施策へのコンサルティング事業を通じて、産業界と教育界をつなぐ次世代育成に取り組む

〈書籍〉



その他：
東洋館出版社「アクティブ・ラーニング」を考える（寄稿）
教育開発研究所「よくわかる 小学校・中学校 新学習指導要領全文と要点解説『新教育課程』ポイント理解シリーズ No.2」(編著：奈須正裕)（寄稿）

〈主な実績〉

講演実績

全国の教育委員会、教育研究所主催の教育フォーラム、および学校教員、保護者向けなど多数。

研修実績

全国の教育委員会、小学校、中学校、高校、大学における、管理職・主幹教員・校内全教員・地域コーディネーター等を対象とした、学校マネジメント・キャリア教育・小中一貫教育・コミュニティスクール・カリキュラムマネジメント等のテーマ

イベント出演

エコプロダクツ 2015 / キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム主催 教育 CSR フォーラム / 企業主催 教育フォーラム / 文部科学省主催 教育フォーラム / キャリア教育コーディネーター育成事業成果普及シンポジウム / キャリア教育アワード 審査員 / 教育・人材育成分野の国際カンファレンス『Edvation x Summit 2018』 他

参加者 約83名
(内、現職61名)

当日使用スライドより抜粋

**Society5.0社会における
学びの転換**

STEAM・学際

テーマ：題材そのものが学際的である

より高度な課題解決

学び方：学習スタイルが学際的である

■ PISA型学力 結果の変遷

	2018年	2015年	2012年	2009年	2006年	2003年	2000年
読解リテラシー	15位	8位	4位	8位	15位	14位	8位
数学的リテラシー	6位	5位	7位	9位	10位	6位	1位
科学的リテラシー	5位	2位	4位	5位	6位	2位	2位
参加国	79カ国	72カ国	65カ国	65カ国	56カ国	41カ国	32カ国

■：各年度で重点的に調査された分野

何ができるようになるか
未来の創り手となる
カリキュラム・マネジメント

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や資質・能力を育む「**社会に開かれた教育課程**」の実現

何を学ぶか
資質・能力を踏まえた教科・科目

アクティブ・ラーニング
どのように学ぶか
主体的・対話的で深い学び

2. コンピテンシーの評価 ～ Ai-GROW の活用～（高等学校の取り組み）

コンピテンシーの測定方法として、昨年度（2021年度）より、Ai-GROW を導入している。

Ai-GROW とは、スマートフォンやタブレットを使って、①生徒の潜在的な気質、②主体性や思考力、判断力、創造力などのコンピテンシーを簡単に測定・分析できるアセスメントツールである。

2021年度は、SSH の生徒 125 名を対象に、2021年 9 月 11 日～30 日と 2022 年 1 月 7 日～2 月 15 日の 2 回、2022 年度は、全校生徒を対象に実施した。

2022 年度実施日程は、以下のとおりである。

〈高Ⅰ 154 名〉

4 月 25 日～5 月 16 日（気質診断）

5 月 14 日～6 月 7 日（コンピテンシー診断）

10 月 7 日～10 月 24 日（コンピテンシー診断）

3 月 12 日～3 月 24 日（コンピテンシー診断）

〈高Ⅱ 147 名〉

5 月 14 日～6 月 7 日

（気質診断・コンピテンシー診断）

10 月 7 日～10 月 24 日（コンピテンシー診断）

3 月 12 日～3 月 24 日（コンピテンシー診断）

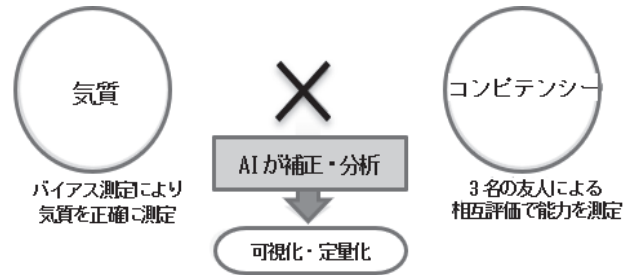
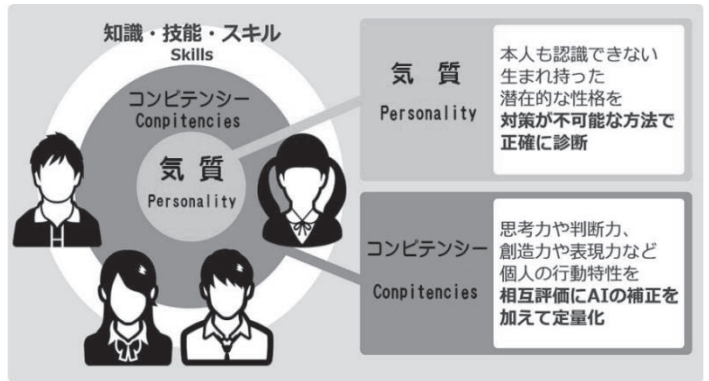
〈高Ⅲ 158 名〉

5 月 14 日～6 月 7 日（気質診断・コンピテンシー診断）

10 月 7 日～10 月 24 日（コンピテンシー診断）

コンピテンシー診断は、自己評価だけではなく、3 名の友人からの他者評価も含めて診断されるため、高Ⅰでは、4 月段階で気質判断のみを行い、5 月に改めてコンピテンシー判断を行った。

また、高Ⅲでは、日程の調整がつかず、最終的な診断が行えなかった。



Institution for a Global Society 株式会社 紹介パンフレットより（一部変更）

4月（5月）と10月 比較

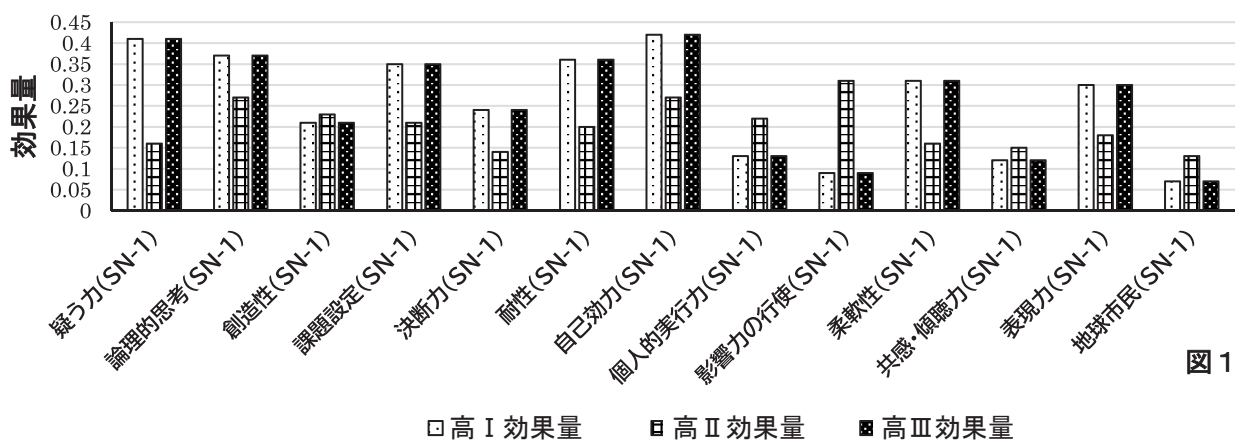


図 1

現時点では、最終診断の実施前であるため、ここでは途中経過での報告を行う。

図 1 は、全学年について、様々なコンピテンシーが、4 月から 10 月かけてどれくらい変化したかを調べた結果である。その結果、学年に応じて伸びたコンピテンシーが異なることが明らかとなった。

高Ⅰにおいては、疑う力、自己効力、論理的思考、課題設定、耐性、高Ⅱにおいては、影響力の行使、論理的思考、自己効力、高Ⅲでは、自己効力、疑う力、論理的思考、課題設定、耐性などが伸びている。これら

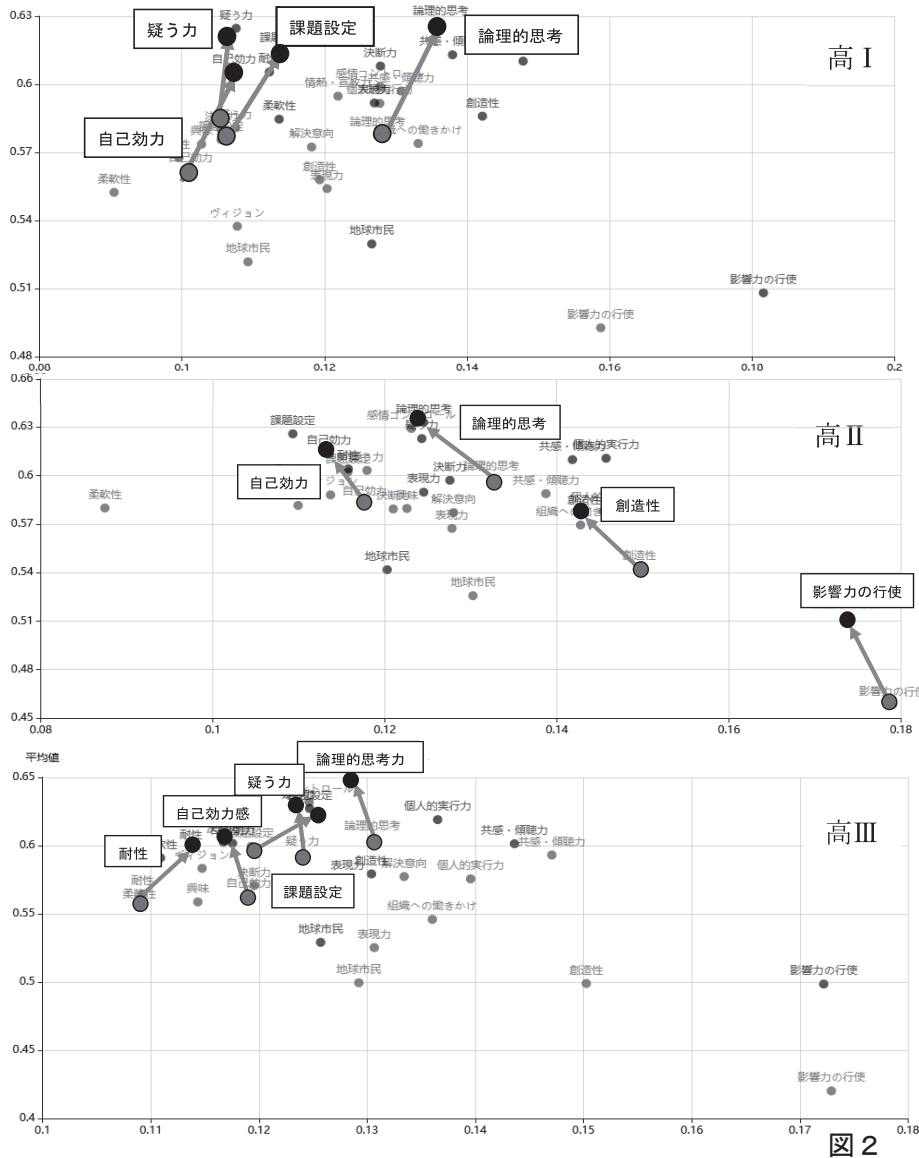


図 2

らの変化量（効果量）は、学年平均で比較している。そこで、標準偏差も含めて学年ごとに比較を行ったものが図 2 である。

縦軸は、学年平均の変化量（効果量）で、横軸は標準偏差である。また、●は 4 月、●は 10 月の値である。

高Ⅰでは、顕著に伸びた項目は、右上がりであるが、高Ⅱではすべて左上りとなり、高Ⅲでは、両方みられた。これは、高Ⅰで、トップ層が伸びたことで平均値は上昇し、幅が広がったことが分かる。高Ⅱでは、幅が小さくなっていることから、中・下位層が引き上げられたこと、さらに高Ⅲでは、その両方が生じていることが分かる。

高Ⅱの「影響力の行使」での中・下位層の上昇を考えると、自治

会行事での中心的な活動が大きく影響を与えているのではと考えられる。今後、学年末の 3 月の結果も考慮して、さらに分析を深める予定である。

一方、課題点としては、以下の 5 点が挙げられる。

- 1) この評価システムがブラックボックスになっているため、妥当性に疑問が残る。まずは、生徒の実態と分析結果を合わせて検討する必要がある。
- 2) 生徒自身が自己分析するためのツールとしての利用価値は、十分にあると感じている。しかし、それを支援する手法やプログラムの開発、積極的な運用方法の検討が必要である。
- 3) カリキュラムマネジメントの資料としての可能性を考えていたが、複合的に生徒達の成長に影響を与えているため、個々の教科や行事の分析には使えない。
- 4) 学年での特性が、測定結果に大きく影響を与えている可能性があり、学年間の比較ではなく、同一学年での変化に注目する必要がある。
- 5) スマートフォンなどで診断が可能であり、いつでもどこでも実施可能と考えていたが、生徒任せにすると実施率が悪く、時間を確保する必要がある。また、他者評価が終了しなければ判定されないため、積極的に受検を促す必要がある。

次年度以降も継続して実施する予定であり、コンピテンシーの分析手段の一つとして、有効に活用していきたいと考えている。